

信楽高原鉄道への支援に関する方針について

1 経過

- ・ 信楽高原鉄道は、平成25年4月に上下分離方式へ転換し、令和5年3月までの10年間、鉄道事業再構築実施計画(信楽高原鉄道株式会社(以下「SKR」という。)、甲賀市、県で策定)に基づき、収支均衡を図り、安全・安定した運行を維持。
- ・ 県は同計画の遂行を支援するため、基金(600,000千円)を積み立て、鉄道施設等を保有する甲賀市に対して補助を実施。
- ・ 今年度で同計画は終了するが、甲賀市からは「市の地域公共交通計画の実施期間(令和5年度から令和10年度までの6年間)において、信楽高原鉄道を市内交通網の交通基軸として位置づけ、引き続き維持していくため、県の財政的な支援をお願いしたい。」との要請を受けている。

2 方針(案)

以下のとおり財政的な支援を継続したい。

(1) 支援する理由

① まちづくり等への寄与と鉄道ネットワークの形成

- ・ 県南部地域のまちづくり、観光振興等にとって、信楽高原鉄道の果たしている役割は大きく、県都市計画基本方針でも甲賀地域の拠点連携型ネットワークを形成する交通軸として
- いる。
- ・ 信楽高原鉄道は貴生川駅でJR草津線や近江鉄道線に接続しており、県南東部の鉄道ネットワークを形成している。

② 鉄道による地域公共交通の継続

- ・ 平成25年台風18号被災時には、バスによる代替輸送を行っていたところであるが、特に通勤通学時間帯は国道307号の渋滞に巻き込まれるなど、ダイヤの乱れが頻発した。
- ・ 通勤通学輸送は定時性が重要であり、鉄道として存続されることが必要。

③ 県と信楽高原鉄道の関係性

- ・ これまでの信楽高原鉄道の歴史は列車事故とともにあり、その事故は県の施策と深く関りのあるものであったこと、また、信楽高原鉄道が地域の基幹交通であったことから、4者(SKR、JR、県、甲賀市)で共同メッセージを発出し、県はSKRに対する債権の放棄等により、支援を継続してきた。

(2) 支援期間

令和5年度から令和10年度までの6年間(甲賀市の地域公共交通計画の期間)

(3) 支援金額

330,000千円(令和5年度から令和10年度までの6年間)

- ※ 鉄道事業再構築実施計画期間(平成25年度から令和4年度までの10年間)においては、590,148千円の支援を実施。

(4) 支援財源

令和5年度予算で「鉄軌道関連施設整備促進等基金」へ支援金額を積み立て、6年間の安定した支援を実施。

(5) 支援スキーム

	費用区分	負担割合
1	施設整備費 (国庫あり) ※	国 1/3 ・ 県 7/30 ・ 市 13/30 (うち交付税措置 6/30) [概要図] (旧制度: 国 1/3 ・ 県 1/3 ・ 市 1/3)
2	施設整備費 (国庫なし)	県 1/3 ・ 市 2/3
3	施設維持管理費	県 35% ・ 市 65%

※ 国庫が満額充当されない場合の不足分は、市が補填。

3 令和5年度当初予算見積要求額

(1) 信楽高原鉄道線保安設備整備事業

- ① 施設整備費 (国庫あり) 42,049,999 円
 - ② 施設整備費 (国庫なし) 1,833,333 円
 - ③ 施設維持管理費 29,740,264 円
- 計 73,623,596 円 ≒ 73,624 千円

(2) 鉄軌道関連施設整備促進等基金積立金

- ① 基金積立て (令和5年度～令和10年度分) 330,000 千円
 - ② 基金利子 226 千円
- 計 330,226 千円

4 支援期間における事業費 (市の計画に基づく見込み)

(単位: 千円)

	2023	2024	2025	2026	2027	2028	小計
	(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	
国補助金	31,500	13,333	20,000	13,333	13,333	13,333	104,833
県補助金	73,624	52,149	44,713	52,670	60,045	44,483	327,683
市費	148,131	107,035	91,321	110,579	122,889	92,083	672,037
事業費(合計)	253,254	172,517	156,034	176,583	196,268	149,899	1,104,554

≒ 330,000